

二〇一九年三月一日

うぐひすの声のいざなふ藪の路
啓蟄の路地に大きくけんけんば
海峡をパノラマに見てしらす井
棟上げのクレーンの空に雲雀鳴く
お河童のほつれを撫でて雛飾る
エプロンを袋に春子提げもどる

二〇一九年二月二八日

学び舎の窓をかすめて初燕
青麦や大和まほろば風そよぐ
岬宮へ磴はゆるやか芽木の風
ままごとのママが二人や野に遊ぶ
春泥の道譲るにも困りけり

二〇一九年二月二七日

雪解川微動だにせぬ鷺のをり
末黒野を辿りし衣夜も匂ふ
訪問医「来たよ」の声の暖かし
先生とハイタッチして卒園す
ふらここの足を伸ばせば靴天へ

二〇一九年二月二六日

太陽の塔を目路なる梅の丘
野遊びの吾子追ふ足のもつれけり
梅盛る広き農家の畑庭に
畑の葱を抜いて揺すりて土落とす

そうけい

菜々

うつぎ

素秀

もとこ

三刀

智恵子

明日香

菜々

なつき

たか子

隆松

よし女

うつき

なつき

ぼんこ

菜々

なつき

せいじ

よう子

鎌研ぎて春の日差しに透かし見る

百度石触れんばかりに枝垂れ梅

梅便り盛ん我が家もほつほと

二〇一九年二月二五日

啓蟄やワゴンセールに人垣す
度の違ふ眼鏡が二つ春炬燵
啓蟄や旅のカタログあれこれと
隣席の春眠深し映画館
教会の塔の天路を鳥帰る

二〇一九年二月二四日

つかみ取る兄の手大き雛あられ
吾子連れてお砂踏みせる日永かな
あたたかやベンチの吾へ鳩すずめ

二〇一九年二月二三日

春夕焼取り込むシート仄と染め
置けば邪魔無ければ恋し春炬燵
なぜなぜと聞く子とをりて庭うらら
遊ぶ子ら見てゐるだけであたたかし
猫長閑大背伸びして歩きだす
さりげなく膝に来る吾子桜草

よし女

こすもす

よし女

満天

うつき

たか子

やよい

よし女

なつき

なつき

はく子

更紗

宏虎

なつき

はく子

素秀

こすもす

毎日句会みのる選・二〇一九年三月三日